

思い出ぎむ 東京つみ木



18

東京小平市に工房兼ギャラリーを構える角森正英さんは何種類もの東京の木を使って、それぞれの本木本来の色と質を活かし、子どもがいくらかじっても安心な無塗装のつみ木を作っています。使う木はモミ、スギ、ヒノキ、ケヤキ、サクラ、クリの7種類。なんでも自分で作りたいという角森さんは、家具の作り方を学ぶべく通った学校で訪れた製材所見学で、東京にもいろいろな種類の木があることを知りました。「誰でも自分の住んでいるところや身近なところにあるものへの愛着があると思うんです。このつみ木にもそんな愛着をもってもらえれば。」と言角森さんのつみ木は軽く、手に持った時の感触が柔らかく、

暖かい。一般的につみ木にはブナなど重くて安定する木が使われますが、重い木は硬くて冷たいという面もあります。「このつみ木は柔らかいので、かじると歯形がつくし、変形したりします。でもそれも思い出になると思うんです。」子どもが遊ぶ中でいろんな傷がつき、それこそその子だけのつみ木になる。それはその子が大人になった時、何とも言えず愛おしいものになっているのではないのでしょうか。

「木を伐る人、製材する人、使う人、そしてまた木が土に戻っていく。その循環の中に自分も入っていったら。」そんなふうに考える角森さん。これからも日々の暮らしを共に歩んでいくような製品が生まれていきそうです。

文/高橋享子

